

令和5年度



# かしわ

柏原小学校だより第11号

令和6年3月1日

児童数 486人

◎ 「笑顔」 なかよく かんがえ たくましく

## 一年間の成長を見届けて

桃の香ただよう希望の月、春3月となりました。陽光にも、春の明るさが感じられるようになり、木々の芽も大きくふくらんできています。いよいよ令和5年度も最後のひと月、一年間の締めくくりを迎えました。

3月5日は、二十四節気のひとつ、「啓蟄（けいちつ）」です。“啓虫（すごもりむし）戸を啓（ひら）く頃”と言われ、土の中で冬眠をしていた虫たちが、陽気に誘われて姿を現す日とされています。この頃になると、太陽の南中高度は冬至の頃と比べて高くなり、それに伴って日中の気温が上がり、暖かくなります。待ち望んだ“希望の春”は、すぐそこまでやっています。

3学期が始まってから2ヶ月、子供たちは学習や運動、行事等に、これまでと変わらず前向きに、よく頑張ってきました。学校生活の中で友達と仲よく力を合わせて学びを深め、様々な場面で成長していく姿が、たくさん見られています。

2月、柏小では“すてきな春”につながる様々な活動がありました。子供たちは、お世話になった人たちへ「感謝の気持ちを伝えること」「次の学年に向けて準備をすること」を大切にしながら、様々なことに取り組みました。

中でも「ボランティア感謝朝会」では、家庭科支援・安全見守り・花壇整美・図書整備・読み聞かせ・トイレ清掃・歯ブラシ回収等でお世話になったボランティアの方々をお招きし、代表児童が感謝の手紙を渡しました。また、「6年生ありがとう集会」では、学校のリーダーとして頑張ってくれた、6年生に喜んでもらえるよう力を合わせて準備を進め“ありがとうセレモニー”を行い、なかよしグループで楽しく遊びました。そして、来週は「6年生を送る会」、今年度も楽しい発表やプレゼントを用意しています。下級生のたくさんの「感謝」が6年生に伝わり、柏小の皆が“明るい笑顔”になれる素敵な会にしたいと思います。

お陰様で、今年度も子供たちは、学校生活を毎日元気で楽しく過ごし、たくましく成長することができました。残された日々はあと僅かですが、新しい学年の始まりに向けて、前向きに学習・生活のまとめに取り組み、一人一人が自分自身の成長を感じられるような、充実した学校生活にしてほしいと願っています。

この一年間、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に温かいご理解ご協力をいただき、柏っ子の健やかな成長を支えていただきましたことに、心から感謝を申し上げます。春の訪れとともに新しい年度が始まりますが、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。



## 除雪作業・・・ありがとうございました

先月2月6日(火)の降雪時に、地域の方々が寒い中早朝から通学路の除雪をしてくださいました。きれいに除雪をしてくださったおかげで、子供たちが事故やけがなく、安全に登校することができました。ありがとうございました。また保護者の皆様にも2時間遅れの登校のご協力をいただきました。

保護者・地域の皆様に支えられていることに厚く感謝申し上げます。

## 固定電話機の入替えに伴う電話アナウンスについて

狭山市内の小中学校では固定電話機の入替えをしています。市内全ての電話機が、事前に通話を録音する旨のアナウンスが流れたのち、自動で録音を行う仕様となりましたので、ご承知おきください。

尚、電話対応時間は引き続き7:30から18:00までとなっております。

## 卒業式(3月22日)の日は1～4年生は臨時休業日です

3月22日(金)は卒業式です。1年生から4年生までは臨時休業日となります。自宅で気をつけて過ごすようにしてください。また午前中は校庭に遊びにくることはできません。

5年生は卒業式に参加します。当日の朝は、通学班で6年生と一緒にいつもの時刻に登校してください。



## ～2月の子供たちの様子から～



### 2/2(金) ひばり学級お楽しみ遠足

ひばり学級の子供たちが、遠足に行ってきました。事前準備をしっかりと行い、バスと電車を使って、入曽地域交流センターで行われていた作品展を見学しました。自分の作品や他校の児童・生徒の作品を鑑賞して、たくさん良いところを見つけました。

帰りは、狭山市駅のお店で買い物をしたり、入間川小学校跡地公園で遊んだりして、楽しく充実した遠足になりました。



### 2/16(金) 保育園交流会(1年生・5年生)

令和6年度入学予定の柏原保育所と小山台保育園の園児たちが来校し、1年生と5年生がそれぞれ交流しました。

1年生とは「じゃんけん列車」をしたり、昔遊びをしたりして楽しみました。また5年生は、小学校の生活について説明をしたり、校内の案内をしたりしました。

1年生と5年生が緊張しながらも新1年生になる子供たちに優しく接していた姿がとても頼もしく感じられました。

